

令和4年12月5日

## 一般社団法人日本医療薬学会 第87回医療薬学公開シンポジウム開催報告書

第87回医療薬学公開シンポジウム実行委員長

名城大学薬学部 教授

築山郁人

令和4年10月8日(土)、第87回医療薬学公開シンポジウムを愛知にて開催致しました(後援:愛知県病院薬剤師会、愛知県薬剤師会)。新型コロナウイルス感染症の蔓延に配慮し、WEB開催として名城大学薬学部八事キャンパスより配信致しました。参加登録の募集開始後数日のうちに応募総数が定員を上回り、当日は計214名の参加者がWEBシンポジウムに集いました。

本シンポジウムでは、「がんと在宅医療」をメインテーマとし、ポストコロナを見据えた薬薬学連携を副題と致しまして、病院・薬局・大学の薬剤師のみならず様々な医療スタッフとの連携を含めた地域医療の発展に期待を込めてシンポジウム5演題、特別講演1演題を企画致しました。シンポジウムでは、まず初めに名城大学薬学部の野田幸裕教授より「がん医療の問題点と現状のoverview」、次いで、名城大学薬学部の柳澤聖教授より「がん診療の最適化を目指した新たな分子標的の探索」と題して、地域の大学におけるがん医療の進展を目指した研究の最新情報についてご講演いただきました。小生からは、「がん治療における支持療法に関する研究」についてお話させていただきました。その後、実際の臨床現場で薬薬連携にもご尽力されている2名の先生にご講演いただきました。まずは病院薬剤師として名古屋記念病院薬剤部の壁谷めぐみ先生より「がん医療における地域医療連携」について、そして、薬局薬剤師として在宅医療の経験の豊富なヤナセ薬局の宇野達也先生より「在宅におけるがん医療」と題して、実際に地域医療において患者宅のベッドサイドと在宅医、訪問看護、地域の中核病院とどのように薬薬連携を実践しているか、どのような課題がありどう対応しているかについて、実践的な内容をご講演いただきました。特別講演では、名古屋大学大学院医学系研究科腫瘍病理学の榎本篤教授より「がん間質からとらえる-がん細胞の周囲環境の改変による薬剤感受性増強の試み-」と題して、今後新たな治療展開に繋がる可能性の高い萌芽研究から薬力学への応用に至る最新の知見をご講演いただきました。WEB開催ではありましたが、多くの参加者から活発にご質問いただき議論する機会となりましたことを心より感謝申し上げます。未来の治療概念の理解と薬薬学連携の発展に繋がることを期待致します。

素晴らしいご講演を賜りました演者の先生方をはじめ、最後まで熱心にご参加いただきました参加者の皆様、そして、準備・企画・運営にご支援ご尽力賜りました愛知県病院薬剤師会、愛知県薬剤師会および関係の方々、さらには準備段階から終始懇切に対応いただきました日本医療薬学会事務局の皆様にご心よりお礼申し上げます。